

SPring-8 利用推進協議会
「放射光利用技術検討会（試行）」趣意書

1. 目的

近年、放射光産業利用の普及により、多くのビームラインが産業応用テーマに開かれ、さらに SPring-8 に加えて国内の他放射光施設においても活発に産業利用が行われるようになった。放射光は分析技術としては高度なポテンシャルを持つが、共同利用施設として利用機会を提供されるがゆえに、分析ツールとしてはアクセサビリティに課題がある。前述したような利用機会が拡大している現状は企業ユーザーにとって、この課題を克服する絶好の機会である。

この状況を有効に活用するには、各施設、各ビームラインの特徴を活かした実験計画の立案が重要であり、これを可能にするにはその特徴を把握することが必要である。この情報共有を目的としたラウンドロビン実験等による施設スタッフ間の連携が進みつつあるが、今後ユーザーとの情報共有に向けた展開を促進する必要がある。そこで本企画では、産業分野で活用されている放射光利用技術について、実際の測定を施設スタッフと共に実施する等の活動を通じて、国内の各施設や測定機器の特徴の情報を参加会員の産業ユーザーと施設が共有することを目的とし、まずはその情報共有のノウハウを検討するために本年度は試行として放射光利用技術検討会を立ち上げる。

2. 活動内容

1) 研究会の実施

産業界の利用が多い測定手法について、参加者が希望する施設、ビームライン間で同一試料を用いた比較測定の機会を確保し、データの取得と比較、及び知見の共有を行う（推進協内開示を原則。関係者の了承が得られた場合は推進協以外にも開示）。

文科省 共用促進事業「光ビームプラットフォーム」で実施している測定標準化活動で取得、公開されたデータは積極的に活用する。

2) 対象：

産業界の利用が多い国内の複数施設もしくは複数のビームラインで実施されている放射光利用技術（例えば、XAFS、小角 X 線散乱、X 線光電子分光など）。

3) 活動期間・開催頻度

期間： 2020 年度～2021 年度（1 事業年度）

頻度： 年 1 回程度／1 年間

4) メンバー

研究会主査： 堂前 和彦 JASRI 産業利用推進室 コーディネータ

幹事： 佐藤 眞直 JASRI 産業利用推進室 室長代理

会員： SPring-8 利用推進協議会会員企業

以上